

6G-5

中国語の言語特性を考慮した日本語数量表現の誤用分析

市井 亮美

NTT 情報通信網研究所

1 はじめに

「数詞+助数詞」の形を数量詞と呼び、数量詞を含む句を数量表現^[1]と呼ぶ。筆者は中国人留学生の日本語での名詞句修飾表現の誤用分析に関する研究を従来より行っている^[2]。この研究の一環として、数量表現の誤用を検討する。以下に数量詞をQ、Qと関係する名詞をNと記述する。日本語の数量表現で数量詞Qの後ろに名詞Nを続ける[QN]という語順がある。中国人留学生が日本文の中で数量表現の語順[QN]を用いる時に、日本語として正しく使っている場合と誤って使っている場合がある。特に[を/が]格以外の格のNと関係するQに関して、誤って[QN]を使用する傾向がある。この点に着目して、中国人留学生がどのような場合に[QN]数量表現を使うかを調べ、日本語の[QN]数量表現と中国語の数量表現との対応の明確化を目指す。この検討結果により、中国語の“把”構文^[3]について今後検討する必要があることを明らかにした。

2 問題点

数量表現の例として、「5キロの赤ちゃん」と「5人の赤ちゃん」がある。「5キロの赤ちゃん」の「5キロ」は「可愛い赤ちゃん」の「可愛い」と同じく「赤ちゃん」というものの属性を表す。このように、前者は名詞が指すものの属性を表す働きをしている数量詞である。一方後者は名詞の数量を表す^[4]。ここでは、後者のみについて検討する。

日本文の中で数量表現[QN]がいつ使えるか使えないかについて以下のように考える。

[を/が]格のNの前にQを置く数量表現[QN]は使える。

例：(A1)「私が図書館から3冊本を借りました。」

(A2)「5人学生が図書館に行きました。」

[に/から/で]格のNの前にQを置く数量表現[QN]は使えない。

例：(A3)*「彼の100万円を3つ学校にあげた。」

[Nです]が述語になっている場合、Nの前にQを置く数量表現[QN]は使えない。

例：(A4)*「このゴミ箱にあるのが2冊本です。」

中国人留学生は[を/が]格の名詞にも、[を/が]格以外の格の名詞にも数量表現[QN]を頻繁に使う。しかし、日本語では上記の基準で示した通り、[を/が]格以外の格の名詞と関係した数量表現[QN]は使いにくいことが多い。中国人留学生がしばしば犯す誤用の例を以下に示す。

例：(A5)*「この机は9本木で作ったものです。」

(A6)*「3人友達からお金を借りる。」

では、中国人留学生がいつ日本語の数量表現[QN]を使用するかを調べる。

3 検討内容

通常、中国語の数量表現の語順はQの後ろにNが続く[QN]である。ここで、ある条件が揃った時に、中国人留学生は中国語の数量表現[QN]に対して、日本文の数量表現[QN]語順を使うと仮定する。このある条件とは何かを探するために、以下のA~E項目に分けて、数量表現[QN]語順を含む中国語を中国留学生に聞かせ、日本語に翻訳させ、対応する日本語の数量表現を調べる。

A 主語と目的語とその他に分けて、数量表現を入れた中国語

例：主語：三張像片放在地上。(写真三枚が床に置いている。)

目的語：我買了三本書。(私は本を三冊買った。)

その他：我给3个学生許多書。(私は三人の学生に沢山の本をあげた。)

B 数量表現が含まれる中国語の文の動詞を入れ換えた中国語

例：「我買了三本書。」の動詞「買」(買う)を「借」(借りる)に置き換える。

- C 数量表現が含まれる目的語を前置詞の“把”によって示した中国語（この場合、目的語が動詞に先行する語順となる）
例：「我買了三本書。」の目的語「三本書」（三冊の本）を前置詞の“把”によって、動詞「買」（買う）の前に移動させる。「我把三本書給買了。」
- D 主語と目的語とその他に分けて、指示詞が含まれる数量表現を入れた中国語
例：主語：「三張像片放在地上。」（写真三枚が床に置いている）の数量詞の前に指示詞を入れる。
「那三張像片放在地上。」（あの写真の三枚が床に置いている。）
目的語：「我買了三本書。」（私は本を三冊買った）の数量詞の前に指示詞を入れる。「我買了這三本書。」（私はこの三冊の本を買った）。
その他：「我給3个学生許多書。」（私は三人の学生に沢山の本をあげた。）の数量詞の前に指示詞を入れる。「我給那3个学生許多書。」（私はあの三人の学生に沢山の本をあげた。）
- E 数量表現の助数詞や名詞を入れ換えた中国語
例：「三張像片放在地上。」（写真三枚が床に置いている。）の「三張像片」を「3台電視」（3台のテレビ）に入れ換える。

4 考察

3章に述べたA～E項目の調査結果を以下に述べる。

- A項目：中国語の主語や目的語に含まれる数量表現[QN]と、日本語の数量表現[QN]との関係を調べた。30文の中国語に対応する日本語の数量表現[QN]は主語や目的語などに偏って出現するという事はなかった。
- B項目：中国語の文に含まれる数量表現[QN]を日本語に訳すときに、中国語の文で使われている動詞と日本語の数量表現[QN]の出現との関係を調べた。30文の中国語に対応する日本語の数量表現[QN]は特別な動詞に伴って出現するという事はなかった。
- C項目：“把”構文を使う時に中国語の数量表現[QN]と日本語の数量表現[QN]との関係を調べた。18文の中国語に対応する日本語の数量表現はすべて[QN]語順で出現した。
例：「我買了10本書。」を日本語に訳す時に「私は本を10冊買った。」を作った。[QN]語順を使っていない。しかし、「我把10本書給買了。」を提示すると、日本語に訳す時に「私は10冊本を買った。」を作り、全て[QN]語順で出現した。
- D項目：中国語の主語や目的語に指示詞を使った場合、日本語の数量表現[QN]と関係があるかどうかを調べた。20文の中国語に対応する日本語は全て数量表現の[QN]語順が出現した。
例：「我買了這10本書。」に対応する日本語は「私はこの10冊本を買った。」である。
- E項目：日本語の[QN]語順の数量表現が数詞と助数詞の組み合わせと関係するかどうかを調べた。20文の中国語に対応する日本語の数量表現は特定の数詞と助数詞の組み合わせに伴って出現するという事はなかった。

上記に述べたA～E項目の調査結果により、中国語の数量表現に指示詞と“把”構文を使うと、日本語の数量表現のQが必ずNの前に来ることをわかった。今後中国語の“把”構文と中国語の指示詞の特徴を考える必要がある。

5 参考文献

- [1] 奥津敬一郎 【日中対照数量表現】『日本語学』1986年8月号
[2] 劉月華など著 片山博美など訳 『現代中国語文法総覧』下 ころしお出版
1988年 P623～P639
[3] 市井 亮美など「母語の言語特性を考慮した日本語誤り事例の検討(その2)」
情報処理学会第44回全国大会 3-97

6 注釈

- *1 中国語の“把”構文^[2]：目的語の前に前置詞の“把”を使っている構文を“把”構文と呼ぶ。
例：昨日他把自行車弄了。（昨日彼は自転車をなくしてしまった。）

7 謝辞

貴重なご意見をいただいたNTT情報研の小原永主幹研究員と中沢恒子研究主任に感謝します。アンケートの調査に協力して下さった中国人留学生に感謝します。